



茶園の高圧散水による チャノミドリヒメヨコバイ防除技術の開発

開発の背景・ニーズ

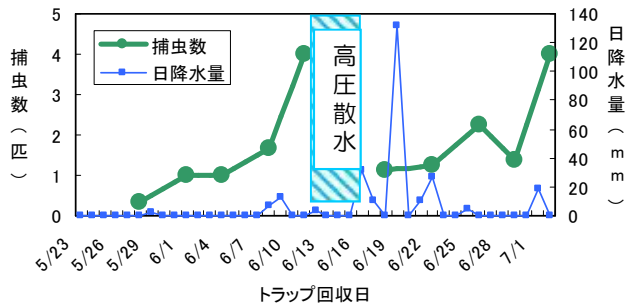
茶の有機栽培においては、チャノミドリヒメヨコバイなどの新芽加害害虫による吸汁被害が多く、特に二番茶以降の新芽生育期の被害により新芽が伸びない場合があります。そこで、台風が通過後、害虫の寄生密度が低下することに着目し、新芽へ高圧散水を行い、チャノミドリヒメヨコバイを洗い流すことによって寄生密度を低下させる耕種的防除技術を開発しました。

成果の内容

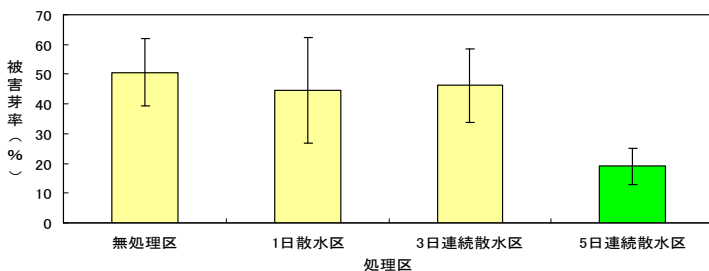
茶園においてチャノミドリヒメヨコバイの被害を軽減させるため萌芽後の発生予察で害虫が増加に転じた時期に、鉄砲ノズルを用いて3.5MPaの高圧で散水することで寄生密度を低減させることができました。有機栽培茶園の耕種的防除に活かされます。



チャノミドリヒメヨコバイの成虫（右上、体長約3mm）、5齢幼虫（左下、体長約2mm）と、吸汁害を受けて黄色や褐色に変色した芽



チャノミドリヒメヨコバイ捕虫数の推移



高圧散水処理が被害芽率に及ぼす影響



鉄砲ノズルを用いた高圧散水方法

愛知県農業への貢献

高圧散水は、新芽加害害虫の耕種的防除の一方法として有機栽培茶園の生産性向上及び農家の経営安定に貢献します。